

新 生

平成二十四年九月十日印刷
平成二十四年九月二十日発行

新生第六十四巻 第三号

山も化粧 小鳥も化粧 秋日和 小富士



東北新生園入所者自治会

新 生

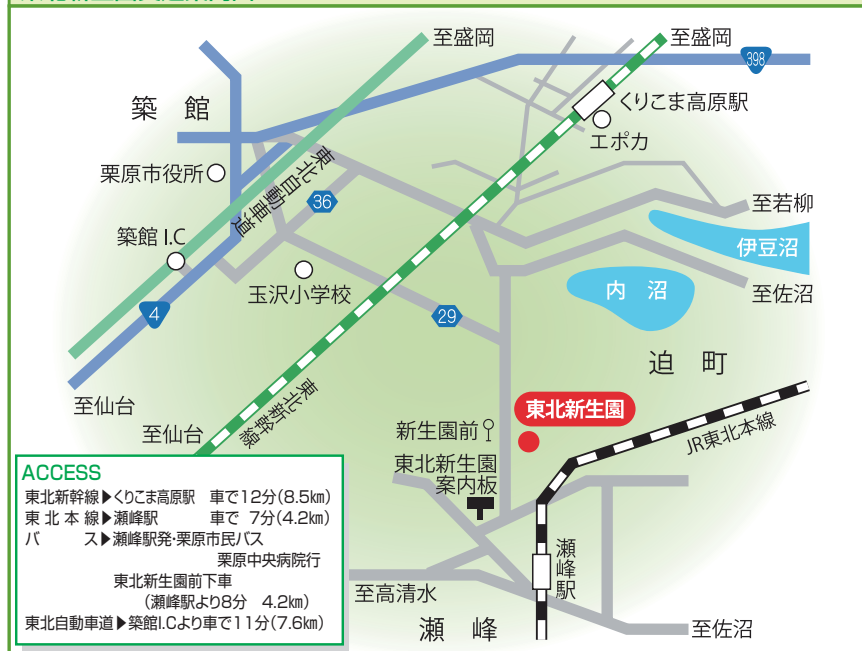
平成二十四年九月十日印刷
平成二十四年九月二十日発行

第六十四巻第三号

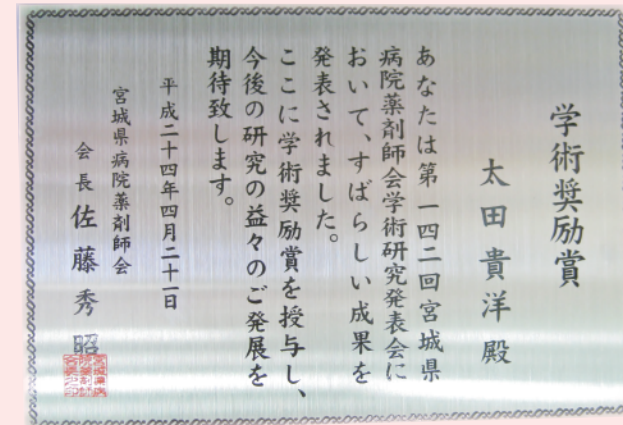
東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	266床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男48名 女58名 計106名
職員定員数	153名（平成24年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



第142回宮城県病院薬剤師会学術研究発表会 学術奨励賞受賞



入所者の皆様、大変ご無沙汰しております。

平成24年3月10日に開催された第142回宮城県病院薬剤師会学術研究発表会におきまして学術奨励賞を受賞することができました。内容は“東日本大震災後の薬剤科における非常時事業継続性計画の構築について”という題目で震災後に作成した医薬品供給の対策を

たてたことに関し発表いたしました。我々が作成した非常時事業継続性計画は、今後起こりうる地震を含む有事が起きても、入所者の方々に使用される医薬品に滞りがないように対策をたてたものになります。今回たてた対策が有事時の園の医薬品供給に何かしら貢献できればと期待しております。

国立療養所多磨全生園 薬剤科

太田 貴洋



園内日誌

平成二十四年 四月～六月

《四月》

二十四日 観桜会（観桜抽選会）
二十五日 観桜会（パークゴルフ大会）

《五月》

十二～十三日 ハンセン病市民学会第八回総会・交流会
in青森・宮城

《六月》

十二日 春季バス旅行（岩手県奥州市）
十九日 第十回宮城県パネル展見学バス旅行
二十九日 第二十九回高松宮記念杯近隣親善
グートボール大会（五十チーム参加）

【謝寄贈図書欄】

平成二十四年四月～六月（敬称略）

始良野	鹿兒島県	星塚敬愛園
高原群馬県	栗生楽泉園	
多磨東京都	多磨全生園	
駿河静岡県	駿河療養所	
楓岡山県	邑久光明園	
菊池野熊本県	菊池恵楓園	
青松香川県	大島青松園	
愛生岡山県	長島愛生園	
ある群像	東京都社団法人好善社	
甲田の裾	青森県松丘保養園	
点字愛生	岡山県長島愛生園盲人会	

平成24年9月10日 印刷
平成24年9月20日 発行

東北新生園楓会(自治会)
楓会文化部
川内印刷株式会社
行集刷
発編印

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第六十四卷第三号……………目次

表紙…「シジュウカラ（四十雀）」……………桃生 小富士	
どうぞよろしく願います……………看護師長…阿部 春栄…（2）	
はじめまして……………一般作業療法主任…齋藤 直樹…（3）	
羽黒山と庄内地方の方言について……………薬剤師…森田 睦子…（5）	
よろしく願います……………医療社会事業専門員…新妻 淑…（7）	

|| 新生文芸 ||

詩……………選者…佐々木 洋一…（10）	
短歌……………選者…長田 雅道…（12）	
俳句……………選者…山田 桃晃…（13）	
川柳……………選者…栗石 隆子…（15）	
随筆「父と息子の会話」……………今野 きよし…（18）	
「現在に至るまで」……………看護師…伊藤 又己子…（21）	
よろしく願います……………看護師…佐藤 末季…（23）	
随筆「姪と叔母」……………今野 きよし…（26）	
はじめまして……………会計班補給係…呂 哲彦…（28）	
よろしく願います……………栄養係…田中 舞…（30）	
園内日誌・謝寄贈図書……………	

どうぞよろしくお願いします

看護師長 阿部 春 栄

前回の新生誌を拝読し、転任した方々の挨拶が掲載されており、皆さん「すごいなあ」と感心して読ませていただきました。新生誌を読み終え一週間した時に、原稿依頼があり驚き、困惑している状態です。

なんのとりえもなく、趣味もなく、紹介することなどないので何を書いたらよいか迷ってしまいました。

四月国立病院機構花巻病院から転勤してきました、阿部春栄です。私は、国立療養所東北新生園附属看護学校の昭和五十二年度卒業生です。その頃を思い出してみると看護寮は木造二階建て、一階は一年生、二階は二年生が入寮していました。

看護寮の向かいには木造の職員食堂がありました。学生時代には朝・昼・夕の食事が楽しみでした。特に日曜日の昼のパン食を楽しみにし、家に帰らなかったことを思い出しました。（その時の栄養を維持したままで、現在も太っています）

春から秋にかけては同級生達と夕涼みに園散歩をしていました。その時には車庫前を通り睦橋（当時は木橋）を渡り、グラウンドを抜けての園散歩をしたものでした。いろんな話をしながら散歩したことが、懐かしく思い出されます。今、考えてみると園散歩はしていたが、いつもと同じところを歩いていたことに気づきました。

睦橋を渡る時には盲導鈴がなっているのを覚えています。“うん十年ぶり”に来園してみましたら、ほとんど昔の面影はなく建物全部がきれいでびっくりしました。園内を歩いて見ましたが睦橋と新生会館以外は記憶のないことに我ながらビックリしています。（記

憶力が悪いですね、以前からです!!）

第一メープルケアセンターの入所者様は高齢の方が多いので、安全に安心できる生活環境が提供できるように関わっていきたいと思っています。転勤し四ヶ月が過ぎましたが、まだまだ慣れないことばかりで入所者様、職員の方々に色々迷惑を掛けると思いますが、足手まといにならないように努めていきたいと思っていますのでどうぞよろしく願います。最後に転勤して一番に嬉しかったことは、自宅から通勤出来ることがうれしいことです。特に待っている人がいるわけではないですが、自宅通勤出来る安心感があります。そのためか、家の事は日々頑張ろうと心がけてはいるのですが、歌詞にあるように「明日がある、明日がある、明日があるさ」の気持ちで後回しにしてしまっている毎日です。自宅は鳴子です。春から秋までは行楽で楽しめますのでどうぞいらしてください。冬は少し雪が多いですが、温泉を楽しみ風情を味わって頂ける

ところです。いらしてください。

はじめまして

一般作業療法主任 齋藤 直 樹

平成二十四年四月一日付で、国立療養所東北新生園にお世話になる事となりました作業療法士の齋藤と申します。国立療養所松丘保養園より参りました。よろしくお願い致します。

私は青森市出身で、今から二十年程前、青森県内の民間のリハビリテーション病院に勤務しておりました。当時、理学・作業療法士が不在であった松丘保養園に青森市出身だからと誘われる形で就職いたしました。その後一人また一人と増えてゆき、松丘保養園のリハビリテーション部門も五人となりました。

今回松丘保養園のリハビリテーション部門では初めての異動という事になり、異動は無いものと思っていたため、本人はもとより、職員、入所者も大変驚いた次第です。今までほとんど青森県で過ごして来た私にとって、親の介護もあるため青森県外へ出る事は考えた事ありませんでしたので、どうしたらいいか随分と悩みました。私にとって宮城県での生活は、学生時代の実習で数ヶ月過ごした事がありますが、それ以来という事になります。最初に東北新生園を訪れた時、青森方面は雪が降っており四時間程度で着くだろうと思っていました。高速道路の渋滞もあり（この時初めて高速道路上で停止する事を経験しました。）、それ以上に時間がかかってしまい、“遠い”と改めて実感しました。

さて、青森市といえば毎年八月二日から八月七日まで開催される青森ねぶた祭りが有名です。青森市で唯一!?おすすり出来るもので

すので、是非一度体験していただきたいと思っています。冬の豪雪も有名で、市内いたる所に雪の山が出来ます。有り余る程の雪がありますが、多くの人にとっては迷惑な雪がエネルギーとして利用できないものかと毎年思います。

四月に心の整理もつかぬままやってきて三ヶ月経ちました。今までとは勝手が違うため、皆様方にはご迷惑をおかけしている事と思いますが、職員の方々をはじめ、入所者の皆様にもやさしく接していただいている事に感謝しております。少しでも皆様のお役に立てるよう頑張りますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。

羽黒山と庄内地方の方言について

薬剤師 森 田 睦 子

平成二十四年四月一日付けで、東北新生園に勤務する事になりました、薬剤師の森田睦子と申します。宜しく願います。

登米市は、初めて来ましたが、何かとても懐かしい気持ちになりました。それは、私の出身地、山形県の庄内地方の風景によく似ていたからです。鶴岡市は、山と海にかこまれたのどかな街です。

私が幼い頃は、祖父母、両親、妹の六人家族でした。カナリアや猫、金魚など、色々飼っていて、とてもにぎやかだった事を覚えています。祖母は、羽黒山のふもと羽黒町の手向地区の出身で、宿坊の娘でした。羽黒の家に

遊びに行くと、二階に大きな神殿があり、おじさんが、白装束に身を包んで、お祓いをしたり拝んでいたのを覚えています。

羽黒山は、標高四百四十四メートルですが、山頂までは、石段で登って行かなければなりません。石段は、二千四百四十六段あり、登るのに一時間程かかります。途中には、平将門が建立したと言われている国宝の五重塔があり、石段の両側は、杉並木が続いていて、とても神秘的です。夏でも涼しく、登っていると、何ともいわれぬ、清々しい厳かな気持ちになります。

羽黒山は、山伏修行の場になっており、四季ごとに四季の峰入りと言って、山伏達が、厳しい修行を行います。“死と生まれ変わりの行”といわれ、断食、水断ち、南蛮いぶしなど、とても苦しい荒行に挑みます。一般参加の修行もあり、毎年九月には、大勢の人々が、修行を積みこめて来ます。

その他にも羽黒町には、映画村があり、鶴岡市出身の藤沢周平の作品が、数多く撮影されています。映画の中では、庄内地方の方言が沢山使われているので、ここで少し紹介したいと思います。

県外から鶴岡に嫁に來た人が、姑に「ガス、うだつてくれ」と言われて大変困ったという話があります。「ガス」は、ゴミを意味し、「うだつてくれ」は、捨ててくれを意味するので、「ゴミを捨てて欲しい」という事になります。

「もつけど」これは、「ありがとう、すみません」を意味します。ある人が、東京から來たお客さんに頂き物をしたので、「もつけど、もつけど」と言ったところ、「もうけた、もうけた」とは何事だと怒られた、というエピソードもよく聞く話です。「まぐまぐどなる」は、「まぐまぐ」となつてしまふ事で、頭が混乱してパニックになつてしまふ状態をさし

ます。

私が好きな方言に「ほしばる」があります。子供の頃、夜遅くまで起きていると、よく祖母から「ほしばらねで早ぐねれ」と言われました。「ほしばる」は、夜ふかしをするという方言で、夜空に星がいっぱい輝いている事からきている様です。今、夜空を眺める時、満天の星空が、昔の幼い記憶を呼び起こし、妙に懐かしく切ない気持ちにかられます。それは私にとって、遠い昔の自分に戻る貴重なやしの時となつているからです。

さて、こちらにお世話になつて四ヶ月が経ちますが、病院勤務は初めてで、とまどう事も多く、ようやく慣れてきたところです。

これから新たな気持ちで頑張りますので、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

よろしくお願いします

医療社会事業専門員 新妻 淑

平成二十四年五月一日より、ケースワーカーとして働かせて頂いております新妻淑（にいつま しゅく）と申します。

私の出身は宮城県栗原市です。栗原市についてご存知の方も多いかと思いますが、栗原市は宮城県の内陸北部に位置し、面積の八割近くが森林や田畑で占められた岩手・秋田両県に接する自然豊かな田園都市です。

また、市内北部には、標高一六二七メートルの栗駒山がそびえ、東西には迫川が貫流し、大地を潤しています。今でも六月下旬から七月にかけて蛍を見ることができますが、私の幼い頃は、今よりも多くの蛍が生息しており、

家の庭まで蛍が飛んできました。自然豊かな栗原市で小学生時代まで過ごし、中学から仙台の学校に通学して、二年半前に再び栗原市に戻って参りました。

栗原市に戻つて来るまでの間に、登米市、遠田郡美里町、仙台市、大崎市と仕事に合わせて、何度も引っ越しをしておりました。この間の仕事も様々で、事務職がほとんどですが、認知症研究や自然食レストラン、新車登録業務、老人保健施設、徴税事務、アルバイトも入れると、パン屋、牛たん屋、球場や七夕祭りでのビール販売、子供服販売等々。

今までの仕事で特に思い出深い事は、母校の教授が気仙沼大島で認知症研究を行った際、その研究の大島在住スタッフとしてお手伝いしたことです。二ヶ月程、気仙沼大島の保養所に大学生のアルバイトのメンバーと共に生活をしながら、大島の六十五歳以上の方のお宅を一軒ずつ訪問し、質問形式で認知症

調査を行いました。お話をする前は、質問に答えてもらえるか、気を悪くさせてしまわないか等不安でいっぱいでした。不安な気持ちのまま訪問すると島民のみなさんは本当に親切に下さいました。調査以外にも新鮮な魚やホタテを宿泊している保養所まで持ってきて下さったり、島の行事に参加させていだいたり、感謝しきれないほどの厚意をいただきました。このご厚意が忘れられず、大島は何かに預いてしまった時、訪れなくなる場所の一つです。大島の海は穏やかで温かく、いつもその大きな優しさと力強い存在感は私の悩みなど簡単に消してくれます。

しかし、私を助けてくれていた海が、大切な人たちの命を奪っていききました。東日本大震災後、大島の元気印の方々の訃報をテレビで知りました。震災後、気仙沼市の港までは何度か行きましたが、大島までは一度も足を運んでおりません。再び大島に行き、亡くなられた方々のために、手を合わせ祈りたいと

な人間でどうしたのかを問われることで、全ての結果は自分次第だということを知りました。

学生時代は、専門的な職業を目標にキャリアを積む生き方が理想でした。そのため、キャリアがないまま年を重ねて行く事への不安に襲われた時もありました。一つの職業を極めることは出来ていませんが、今では様々な職種を経験出来たことは、自分にとって良かったのかなと思えるようになりました。浅くでも経験したことがきつといつか自分を助けてくれるような気がするからです。

東北新生園でも、これから多くのことを学び、成長したいと思っております。一日でも早く、みなさんのお力になれるよう一生懸命努力して参りたいと思いますが、ケースワーカーとしては、平成二十四年三月に資格を取得したばかりの新人です。これから、入所者の皆さんや職員の皆さんにご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、ご指導よろ

思っております。

また、仕事以外で思い出深い事は三カ国ですが、海外に行ったことです。オーストラリアとメキシコとグアムに行きました。オーストラリアとメキシコにはホームステイしました。メキシコに関しては、メキシコ人に手紙を書き、自分でホームステイ先を探したのですが、振り返ってみると英語もスペイン語もほとんど分からない状態で、度胸だけはあったのかなと思います。三年前の夏休みは一人でグアムに行き、四二〇〇メートルからスカイダイビングをしました。現地のスタッフに「富士超え！」とおだてられたのを思い出します。外国に行ってみると、日本の良い所と不十分な所の両面がはつきりと感じられます。中高校生の頃は、日本の制度や文化に対して、反発心たっぷりだった私にとって、外国を知ることには大きな学びとなりました。不満ばかりの現状がただけ恵まれていたかということに気づかされ、私個人はどん

しく願います。



—第14回花火大会—
(平成24年7月21日)

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《介護員》 今 野 きよし

私の部屋の係の
介護員
Kさんは活花上手
畑作りも
お手のもの
私たち妻と二人の

生活勿論で
趣味の果てまで
気を配り
風邪のため
入院その他
お世話になって
入院準備
病室訪問
目がまわるほど
それでもKさん
あつさりと
すました顔で
掛持ちの
二部屋三部屋と
忙しく駆け廻る
下着欲しいと
頼んだ時も

【選 評】

「介護員」

この作品からは、何気無い日常における作者と介護員（ホームヘルパーでしょうか）のこまやかな心づかいを感じます。最後の一行を前向きな言葉にすると、より現実的な願いになるのではないでしょうか。

勤め終えてから
車走らせ
店廻り
買物終えて
明くる日に
届けて呉れた
定年迎えたら
フレーム建てて
花作り野菜を作り
楽しむと

その時手伝い
頼むから
元気で居るよにと
うれしくなって
リハビリ精を出し
恩返し
できるようにと
祈るのみ



短歌

長田雅道選

◇ 入 選 ◇

今野 きよし
くれぐれも大事にしてと退職す二度と
会えない別れと思う

【選 評】

送別会であろうか。退職する方がくれぐれも大事にしようと言った。その別れを二度と会えない別れと思うと詠み、惜別の情をみごとに表現した。

佐藤 つや子

ようやくに身支度整え立ち上がる我が
手に出来ることは嬉しも

【選 評】

身支度を整えるのにもやつの
思いで、時間がかかるという。し
かし自分自身でできることは嬉し
いと詠む。老の日々を明るく前向
きに生きようとする作者の思いが
読む者の心を打つ。

◇ 佳 作 ◇

今野 きよし
ごめんねと言葉をかけて看護師の素早
く済ます朝の点眼
吊るされし花見灯笼十幾つ雨の夕暮れ
沼面に映える

俳句

山田桃晃選

◇ 入 選 ◇

千代田 秀夫
いま少し早き風鈴そつと掛け

【選 評】

季節の流れは早いもので風鈴を
吊るす時がそこまで来ている。吊
るすには少々早いのだが、取り出
して見れば、あの音色が懐かしく
待ち切れない。至福の音色。

小遣いを出し合い買いし桜の木七十年
の齢と聞きぬ
故里のわが家の敷居跨ぎたく想いは募
る近くに住みて
食堂に血圧計を備えあり寝ぼけ眼で
朝々計る

佐藤 つや子

聞きなれぬ声の放送流れきて年度変わ
りし事を知らしむ
腰の萎え手の萎えすすみ年重ねようや
く整う朝の身支度
水色のピンク地色のパジャマ買う年経
るごとに明るさの欲し
さくらんぼ今年もいただく友の故郷羨
みながらいただきており
星空に願い込めつつ七夕の寮の行事に
なごむ一時

今野 きよし

横向いてはすかしそうに百合の花

【選 評】

恥ずかしいのは作者ではと思う
(御免)。右を見て左を見て、乙女
心の想い出に「立てば芍薬、座れ
ば牡丹、あゆむ姿は百合の花」の
諺。無性に懐かしくなる齢を忘れ
て。

斎藤 照雄

面会の孫等主役のスイカ割り

【選 評】

長い闘病生活が続くと面会人が
懐かしい。ことに孫が揃って来る
と病を忘れる。今日は孫等主役の
西瓜割り。お爺さんも一役かって
楽しい時を過ごす喜びがある。

◇ 佳 作 ◇

園 永 泊

梅雨晴れ間庭の石面変わるなり
落の臺立ち小便に無表情
まとまった噂話題に梅雨晴れ間
原爆忌軍事郵便ラッパの音
七月四日とことんまで来り誕生日

千代田 秀夫

ひたすらに桜待つ間の古ベッド
九十年よくも生きたり鯉幟
母の日に見知らぬ甥の贈り物
春一番台風の如暴れ去る

今野 きよし

黒猫のうたがう眼木下闇
巣作りのつばめせつせと泥運ぶ
緑蔭に前掛け垂れて地蔵尊
緑蔭や水満々と花山湖

斎藤 照雄

山百合の匂う中なる試歩返えす
いろいろな野菜くだもの盆だなべ
秋の風やせた体を労わって
あやめ咲く頃にあの娘のお嫁入り

川 柳

雫石 隆子 選

◇ 入 選 ◇

斎藤 照雄

闘病にまだ鼻唄が残ってた

【選 評】

闘病の日々も痛みも測り知れな
いが、まだ「鼻唄」の余る余裕に
救われる。闘病中にもかかわらず
ポジティブな生きざまが、感動と
なつて胸打たれる。この強靱な精
神に拍手を送りたい。



損得になるといつしか口尖る
桃生 小富士

【選 評】 損得への敏感な反応こそ人の業

でもあろう。人間の人間らしい表情を鋭く切りとる作者の観察眼は、川柳の目である。他の掲出句に、夕暮れ時の目のおぼろを書いたのが、心の気配を感得する川柳の目は健在のようである。

楽になるその日を待てり影法師
桜山 南仙

【選 評】 影法師はもう一人のわたしだ

が、現世のすべてからの解放を待っている。生き生きした人の達観の境地であろう。この作品の背景の辛苦を思う時とき、胸を揺さぶられるほどの痛みを覚える。

千代田 秀夫

宗教が火種となって殺し合い
このいのち捨ててなるかとしがみつ
き
踏まれても蹴っ飛ばされても達磨面

桜山 南仙

コップ酒愚痴の泉となることも
踏まれても草が蒼むを主張する
半年の暦を背なにさあいこう

今野 きよし

帰り来て除染にならい口すすぐ
義妹から南部せんべい里の味
なやみごと癒してくれる星の夜

◇ 佳 作 ◇

今井 清風

心地良い疲れ嬉しやわらび採り
亡き友よ似た子立派に生きてるぞ
あの人の覚悟を俺は笑えない

斎藤 照雄

闘病よまだ軍配は上がらない
大欠伸今日も行くぞと言うかまえ
茶柱やうきうきと今日終える

桃生 小富士

セシウムに一喜一憂生産者
路地裏に喜怒哀楽の詩があり
二十四時俺を監視の心電図



—宮城県パネル展見学—
(平成24年6月19日)

随筆

父と息子の会話

今野 きよし

A 息子

B 父

A 父ちゃん、俳句の本に「名月をとつてくれろと泣く子かな」っていう俳句あるんだってね。

あるなあ。

A 父ちゃん知っていたのか。

B 四、五日前に俳句歳時記で見つけた小林一茶の句だった。

A 昔から云われるくらいお月様大きく見えたのか。

B 見えたと思うよ。

A 昔の人ってそんなにお月様大きく見えた

のか。

A 昔のお月様、今より大きかったべ。

B 昔のお月様と今のお月様、大きさ違うのか。

A そう聞かれると返答に困るな。

B 俺そんなに難しい事聞いたのか。

A そうでもないけど難しいな。

B なしてなの。

A それは多分、昔は空が澄んできれいだったから大きく見えたんだと思う。

B そうか、そのように聞かされるとわかる気がする。

A そうか、お前もそう思うか。

B うん思う。今は親子で遊んだり話をしてりしないからね。

A 今は仕事仕事で忙しくてなあ。

B なして大人の人って仕事の事にばかり夢中になるのかな。

A そのようにしないと世の中から遅れてしまふからさ。

A 何も急がなくても良いからゆっくり進めば良いのに。

B そうばかり行かなくなっているからな。昔は田や畑を作って家族で暮らせたから。

A 今の人は気の毒なんだね忙しくて。そうだお前たちも中学だけで上の学校にも行かない、自動車にも乗らないというようになるからな。

A そうなったら私たちは浦島太郎になってしまうね。

B そういうことになるな浦島太郎か。父ちゃん、昔お月様でうさぎがもちついていたんだってね。

A そうだ父ちゃんの小さい頃はお月様見るとうさぎのもちつきにばかり見えただ。

B それ誰も不思議に思わなかったの。天気が良くて静かな夜に空を眺めてうさぎがもちつきしていたって言っていたも

んだ。

A それに誰もなんとも言わなかったの。そうだなあ何も聞いた事ないな。

B いつからうさぎもちつき止めたの。アメリカの人工衛星が月に行ってからかな。

A それから月の話は人工衛星の事ばかりするようになったのか。

B 父ちゃんはやっぱりうさぎもちつきやっていたときの方ええな。

A その話は言わないの。

B その話したら笑われるもの。

A 父ちゃんも心の中は複雑なんだ。そうだ夢と現実がちがうからな。

B 父ちゃんも夢と現実合わないのか。

A そうだ夢と現実とは合わなくなってきた。俺も大人になったらそのようになるかな。

B 父ちゃんな二十才位るとき、向かいの山にうさぎ毘かけて来たことあるんだ。

A そしたらどうなったの。
 B そしたらな空が晴れた満月の夜だった。
 A うーんどうなったの。
 B それがおかしい事があったんだ。
 A そんなにおかしいことあったの。
 B 夜な月がこうこうと輝いて風がそよそよと吹いて山の笹の葉がゆれていたんだ。
 A それから。
 B 笹の葉がゆれているのを向かいの山にかけてあつたうさぎ毘にうさぎがかかつていたように見えてな。
 A そしたら。
 B そして山に行つて見たところ、うさぎも何にも居ないのさ。笹の葉がゆれていただけだった。
 A 父ちゃんって時代離れしているんだね。
 B そうだな、だからこうして未だに時代遅れの貧乏暮らししかできないでいるんだ。

A 父ちゃんみたいな人ばかり居たら世の中平和だね。
 B そう思うか。
 A うん思う。
 B それ良かったな。
 A 俺は違う事しなけないね。
 B 父ちゃんは夢の中を歩く事に、お前は時代の先端を行くんだと。
 A そうする。そのように努力する。
 B さすがはお前だな、うれしいな。
 A 俺もうれしくなつて来た。世の中が開けて希望がふくらんで来たもの。
 B そうだな楽しみにしているからな。

「現在に至るまで」

看護師 伊藤 又己子

平成二十四年四月一日付けで東北新生園勤務となりました伊藤又己子です。

四月から約五ヶ月経過しますが、まずは現在に至るまでを自己紹介したいと思います。

私は宮城県多賀城市出身で、幼い頃は病気がちで看護師と接することが多くありました。幼い頃に出会った看護師さんの影響を受け、物心つく頃から看護師になりたいと思うようになりました。

高校卒業後、石川県金沢市の看護学校に進みました。金沢での看護学生生活は、まず金沢の方言にとまどい、なかなか金沢になじめない生活でした。また、初めて親元を離れ遠

く離れた土地でもあり、不安や寂しさで一杯でしたが、三年間頑張れば地元に戻れるという思いと、絶対に看護師になつて帰るという思いで看護学生生活を送りました。また、遠くで支えてくれている家族や友達、金沢で看護学生生活を共にした友達の支えがあったからこそ看護師になれたのだと思います。

看護学校卒業後、宮城県に戻り西多賀病院に就職しました。西多賀病院では筋ジストロフィー病棟に六年間勤務しました。

西多賀病院の筋ジストロフィー病棟は、日本でも最も呼吸器の台数が多く、疾病の進行に伴い援助内容も日に日に濃いものとなっていました。また、筋ジストロフィー病棟の特徴ともいえる一ミリ単位の看護を理解し実践できるまで大変時間がかかりました。

一ミリ単位の看護とは、体位変換やベッド周囲の環境など一つ一つ一人一人が異なる特性があるため、一人一人の特性をつかみ看護

していくことの難しさ・大切さを学ぶことができました。

また、筋ジストロフィー患者の多くは、幼い頃から親元を離れての入院生活であるため、看護師が家族同様の関わりを必要とすることが多々ありました。

ある時、先輩から「家族が入院している時にどのような看護をされていたら安心して家族を入院させられるか、患者を家族だと思って看護するといい。」との言葉を頂きました。それから、この言葉を胸に筋ジストロフィー患者との関わりは日々ハードなものでしたが、楽しく関わっていくことができた六年間だったと思っています。

そして、東北新生園へは婚約を機に西多賀病院から異動の願いをし、東北新生園で世話になることになりました。四月から第一病棟勤務となり、スタッフの皆様や入室者の皆様には、とても親切なご指導のもと勤務する

よろしくお願ひします

看護師 佐藤 末季

みなさま、はじめまして。四月一日より東北新生園で勤務させて頂くことになりました佐藤末季です。

以前は、亘理郡山元町の宮城病院で、主に重症心身障害児（者）の方々を対象に身の回りのお世話や看護をさせて頂いてきました。看護師となり今年で五年目に突入ですが、まだまだ右も左も分からない若輩者ですので、これからのご指導など、よろしくお願ひいたします。

話は変わりますが、少し私の自己紹介をしたいと思います。私の実家は青森にあります。青森市内で、

ことができました。仕事も覚え始めてきた頃ではありますが、妊娠を機に現在は第二メーブルケアセンター・治療棟での勤務となりました。主に、治療棟で勤務させて頂いておりますが、仕事内容を覚えることで精一杯で入所者さんのお名前や顔を覚えて関わっていくことが、なかなかできていないのが現状です。できるだけ早く皆様の名前・顔を覚えること、また私の顔と名前も皆様に覚えて頂けるよう努めていきたいと思っています。そして、入所者さんの個性も少しずつ把握していきたいかな援助・関わりができるよう努力していきたいと思っています。

東北新生園にきて、まだまだ新人看護師であり、ご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが、皆様に教えて頂きながら成長していきたいと思っています。

今後ともよろしくお願ひ致します。

行ったことはないけれどハンセン病の施設である松丘保養園とは車で二十分くらいの場所に実家があります。

青森市内で高校まで過ごし、高校卒業後に弘前市の看護専門学校へと入学しました。そこで三年間看護について専門的な知識を勉強しました。私はどちらかと言うと、実技よりも机に向かった学習の方が得意なので、いざ病棟にはいり、自分なりに看護を展開しても、同じ学生の中でも、一歩二歩と足並みがそろわないことも多々ありました。今になって思うと、看護師の免許を取得するのに、筆記試験だけで、実技試験がなかったのが幸いしていたのかな、なんて思ったりすることもあります。

看護学校を卒業後には、やはり地元での就職も考えていたのですが、一度も実家を離れたことがないので、東北六県にある病院への就職を視野に入れて、希望の病院を探すことにしました。

そうは言いつつ、やはり第一希望は青森県内。青森市内の民間の病院は採用内定でしたが、民間の病院よりは安定した収入が期待できる病院がいいかな、と親のアドバイスも受け、せっかくの内定も拒み、倍率の低い宮城県病院へ就職することになりました。

就職を決めた宮城県病院は、独立行政法人でしたので、全国の同じ系列の病院へ転勤することができるよう、はじめのうちは、何年か働いて、看護の知識や実践技術、応用力を身に付けてから、青森にある独立行政法人の病院へと転勤できたらいいな、という思いがありました。

しかし、現実はなかなか上手くいかないものです。看護師として働いて、はじめの一年間は脳外科の急性期病棟で勤務させて頂きました。先輩から仕事のノウハウや、看護の知識、技術をたくさん教えてもらいながら、少しずつ自分で考えて行動できるようになっ

の一年間は子供の育児休業をとらせていただいていたので、ブランクがあります。ここ東北新生園で看護師として新たな一歩を踏み出し、ここで色々なことを学び、自分の力となるよう、日々励んでいきたいと思えます。

最後になりますが、この原稿の依頼を七月に受けた現在、新生園に勤務して四ヶ月が経ちました。はじめは、ハンセン病についてほとんど無知に近く、入所者の方とどのように関わればいいのか分からず、不安に思うことが多々ありました。しかし、今では毎日の仕事、入所者の方との関わりがとても楽しく感じられます。

看護師としては、まだまだ未熟な部分も多いですが、これからもお付き合いの程、よろしく願います。

ていきました。しかし、もともと実践が苦手だったこともあり、先輩スタッフについていくことがやっとで、なかなか一人立ちすることができません。急性期病棟であったため、夜には二人から三人の勤務体制だったことで、夕方から夜中までのいわゆる準夜勤を主にやらせて頂きました。

看護師二年目からは、比較的状态が落ちついている重症心身障害児（者）の方々がいる病棟へ異動し、そこで三年弱働かせていただきました。そこでは、準夜・深夜ともやらせていただき、二十四時間・一日を通した看護というものについて学びました。

やはり日中だけ関わるのとは違い、普段見せない夜中の行動パターンがあったり、日中とは違う患者と看護師との関わりがあったりと、夜勤を通して様々なことを学ぶことができました。

今年で看護師になって五年目ですが、昨年



— 第29回高松宮記念杯近隣親善ゲートボール大会 —
(平成24年6月22日)

随筆

姪と叔母

今野 きよし

A 姪 姫子 B 叔母 由理枝

A 叔母ちゃん今日休みなの。
B 今日はね、お仕事休みなの。
A わあ、良かった。私も今日ね、学校休み
B なの。土曜日でしょう。
A そうだね。なにか今日良いことあるの。
B 私、叔母ちゃんがいっつ休みなのかなって
指折り数えていたの。
A そんなに待っていてくれたの。
B はい。私、叔母ちゃんがいっつ休みかなっ
ていつも思っていたの。
B そんなに叔母ちゃんのこと待っていたの

A なにかわけあるの。
B 叔母ちゃんにね、休みの日にはうんと遊
んで貰いたいと思っていたの。
A 叔母ちゃんだけでなく良いでないの。お
母さんだって居るんでないの。
B お母さんはね、お仕事忙しいからってな
かなか遊んでくれないの。
A おばあさんだって良いでないの。
B おばあさんはね、お話少しするとすぐ飽
きてしまうの。
A おばあさんすぐ飽きるのか。
B すぐ飽きて、ごろんと寝てしまうの。
A おばあさんも飽きるようになったのか。
B そうよ。すぐ寝てしまうの。
A それではつまらないね。おばあさんもい
つも働いているから疲れているんだね。
B 私つまらないの。
A 叔母ちゃんもすぐ飽きるかもしれないよ。
B 叔母ちゃんとは違う。いつも私と遊んでく
れるもの。

A B それから何かあるの。
A 叔母ちゃんね、言葉がきれいだってみ
んな云うもの。
B ええ。そんなに言葉きれいに聞こえるの。
A 学校先生よりも言葉きれいな。
B 先生だもの言葉きれいでしよう。それか
ら何でも教えてくれるでしょう。
A そうかな、そうでないような気がする。
B そういうわけなのか。
A だから今日ね、ゆつくり遊んでね。私さ
びしいの。
B わかった。そうか今日はゆつくり遊んで
やるからね。私も遊んでね。
A うわ。うれしいな。
B 叔母ちゃんの言葉ってそんなにきれいに
聞こえるの。
A 叔母ちゃんの言葉きれい。
B 私はふつうだと思っている。
A 叔母ちゃん言葉教える学校に行つたの。
B どこも学校には行かないよ。
A あね、叔母ちゃんと話をするとね、私

A B もきれいな言葉になるような気がする。
A 叔母ちゃんね、おばあさんの言葉使いま
ねしていると思う。
B そう云うとおばあさんの言葉きれいだも
のね。
A そうなんだよね。そのようになるんだね。
B 叔母ちゃん、今度休みいつなの。
A 今度ね、そうね来週の土曜日かな。
B 何日頃か、こよみ見るから。
A こよみ見たの。
B 見たら、くるくるとなっていた。
A ああ八日だな。その日は姫ちゃんとおば
あさん連れてお祭り見に行くか。
B 良かったね、お祭りの日で。
A 偶然ね、お祭りの日に休みだなんて。
B 叔母ちゃん、運が良いんだね。
A そうだね待っててね、楽しみだ。又遊ば
うか。何かゲームでもやって。
B 待ち遠しいな、うれしくなってきた。叔
母ちゃんありがとう。
A 叔母ちゃんも楽しくなったね。

はじめまして

会計班補給係 野呂 哲彦

東北新生園の皆様、はじめまして。本年度の四月から、こちらの園で補給係の任に就いている野呂哲彦と申します。社会人一年目ということもあり、未だ右も左も手探り状態といった有様。その為、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんがどうぞよろしく願います。

私は生まれも育ちも秋田県秋田市です。高校の三年生までの十八年間で市内にいます実家で過ごしました。その後福島大学に進んだため四年間を福島県で過ごし、就職試験に失敗してからはまた実家に戻り四年間。そして、今年ようやくこちらでの就職が決まり今は官舎でお世話になっております。

ときには良くお世話になっております。それでも足りない時には、自転車で沼まで向かいます。一時間以上かかりますが、道は平坦なのでそれほど遠くは感じません。最も、大抵の場合は自転車籠とリュックに荷物を満載して帰ってくることになるので、なかなかの重労働になります。特に、瀬峰駅から園までの坂を上ってくるのは非常につらく、疲れます。良い運動にはなるのですが…。

そして、こちらの暮らしを始めて以前の一人暮らしの時と大きく変わったと思う点が「料理をよくするようになった」という点です。大学生のころは、出来合いのお弁当や惣菜で済ませてしまうことも多かったのですが、今回の一人暮らしでは大抵の場合自分で作っております。近くにそのようなお店がないため必然的ということもありますが、単純に自分で作ったものを食べるのが楽しいのです。とはいえ、平日はそんなに余裕ありませんので、休みの日に作っておいたきんぴ

さて、こちらに移り住んで早四か月。仕事については、まだまだ覚えなければならぬことだらけで徐々に慣れつつあるといったところですが、自分なりの生活リズムはなんとか掴めてきたように思います。なにしろ、一人暮らし自体は大学在籍時の四年間で経験済みであったため、ある程度は早めに慣れることができましたが、このあたりの土地の事は皆目分かりません。車も持っておらず移動手段は自転車と公共交通機関しかないので、こちらに來たばかりのころは暮らしていけるのかどうか不安に思ったものです。しかし、今のところは自転車とバス・電車で買い出しならなんなりはやっていけております。瀬峰駅までなら自転車でもそう遠い距離ではありませんし、駅まで行けばスーパーがあるので暮らしに必要な最小限のものは簡単に手に入ります。スーパーで事足りないときは、駅から電車で二駅行けば小牛田のヨークベニマルがあるので、食料品以外に雑貨などが欲しくなっ

らごぼうやひじきの煮つけを副菜に、メインの肉か魚を煮るか焼くかして、付け合せに買い置きしておいた豆腐を半丁ほど冷奴にしてみたり…というのが一つのパターンとなりつつありますが。休日には本腰を入れて料理を作ろうと思うのですが、大抵の場合は煮込み料理。下ごしらえをした野菜や肉を三〜四時間煮込むだけで出来るので休日にはもってこいです。灰汁取りさえ面倒だと思わなければそれなりにおいしいものが出来、鍋一つ分ぐらいの量は作るのではばらくは食事にも困りません。無論、その後毎日同じものを食べるわけではありませんが…。

さて、駄文を長々と書き連ねてしまいましたが、この文章で自分という人間の事が少しでも伝われば幸いです。まだまだまだ未熟者の自分ではありますが、これから精いっぱい頑張らせていただきますので、なにとぞよろしく願います。

よろしく願います

栄養係 田中 舞

平成二十四年四月一日付けで東北新生園勤務することになりました、田中舞と申します。

こちらに就職が決定したのが管理栄養士国家試験の約十日前で、精神的にも肉体的にもギリギリ追いこまれていたときでした。採用の電話は、不安で逃げ出したくなりそうに私にやる気と「新生園」での生活という新しい目標を与えてくれました。おかげさまで試験当日は緊張しながらも自信を持って臨む事ができ、大学生最後の日々を後悔することなく過ごすことができました。

私は生まれも育ちも宮城県でしたが、県北で生活するのは初めてで、こちらに来てビックリしたことが「同じ県内なのに方言が

分らない！」ということでした。普段調理師さんたちとお話していても、まず語尾が違う！知らない単語が出てくる！と方言に興味がある私はわくわくしながら聞いています。他にも、昔の献立を見ていて実家では馴染みの無かった食材が使われていたり、今まで食べたことのない郷土料理に出会えたり、新しいことの連続で宮城県は広いのだなあとしみじみ感じています。

昼食時に皆様の様子を伺いに行くと、「あなたが放送の子ね、初めて見た！」と声を掛けて頂きます。早く声と顔が一致してもらえるように、皆様と話していきたいと思います。いつもは緊張しているので控えめですが、本当はおしゃべりが大好きなので見かけた時は気軽に話しかけてください。まだまだ分からないことばかりですが、がんばっていききたいと思いますのでこれからもよろしく願います。